



photo: Hiraku Ikeda



振付・出演: 白井 剛 (AbsT / 発条ト)

振付・テキスト・出演: 川口隆夫 (dumb type)

ディレクション・照明: 藤本隆行 (dumb type)

音響・振動・システムデザイン・プログラミング: 真鍋大度

音響・映像・ビジュアルデザイン: 南 琢也 (softpad)

映像・プログラミング: 堀井哲史 (rhizomatiks)

機構設計: 齋藤精一 (rhizomatiks)

デバイスプログラミング: 石橋 素 (DGN)

センサーシステム: 照岡正樹 (VPP)

衣装デザイン: 北村教子

photo: Hiraku Ikeda



photo: Ryuichi Maruo (YCAM InterLab)

舞台表現における、テクノロジーと身体の関係性は新たなステージを迎える!

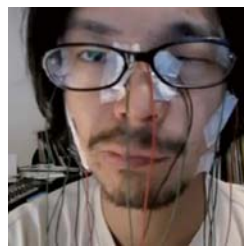
舞台、音楽、映像、メディアデザインの最先端で活躍する10人のアーティストが集結し生み出した、インタラクティブな舞台空間。その中に立つ2人のパフォーマー、白井剛 (AbsT) と川口隆夫 (ダムタイプ)。彼らの動きが瞬時に音や映像そしてLED照明と同期することで、あたかも舞台全体がひとつの生命体のように機能する。2007年の初演から海外ツアーを経て、初の東京公演!



1



2



3

- 1: 筋電センサーは、筋肉が収縮する直前に発生する微弱電流を計測し、音声信号に変換する。その信号は瞬時に解析され、新たな音への変換や、LED照明・映像の引き金になる。
- 2: ステージ上に置かれたテーブルは、多数の機能を内蔵したこの舞台の始点である。
- 3: trueのシステムデザイン/プログラミング/サウンドを担当した、真鍋大度の実験映像「electric stimulus to face-test」は、YouTube上で既に130万ビュー超を達成。ここに現れている彼の実験精神は、trueの中でも重要なファクターである。

知覚的異化を生み出す情報機械

「true/本当のこと」は、LED照明や筋電センサー、振動子などという技術の創造的使用に加え、それ以上に、私たちの知覚認識を揺るがす体験をもたらす作品である。私たちは客席にいながらも、舞台上リアルタイムに起こる出来事——神経・身体的であれ、物理・空間的であれ——の連鎖およびフィードバックのダイナミズムの只中に巻き込まれるかのようである。

情報技術によるインターフェイスが、パフォーマーの脳からの信号を、筋肉を経由してサウンド、映像、照明、イントレの振動そして空間全体へと瞬時に拡張させていく。従来のダンス・パフォーマンスにおける身体/空間という分断を超えて、神経的反応体としてのパフォーマーが舞台へと連鎖的に拡張され、全体で壮大な「情報機械」もしくは「パフォーマー」として稼働しはじめる。

「true/本当のこと」では、このような連鎖的拡張を前提に、二つの知覚的異化を生み出すことに成功している。ひとつはそもそも異物であるもの同士 (人間やさまざまな事物) を強制的につなげることによって、はからずも浮上してしまう各自の異物性であり、もうひとつは、演出として組み込まれた、マジックのように鮮やかな様々なエフェクトである (影がRGBに分解されるパフォーマー、コスチュームの色変化、テーブルの多面的な仕様)。これら二つの異化および相乗効果により、身体を含む空間のあらゆる事物が、それが持つ (とされている) 統一的な物理・概念的フレームを振り払い、多様な現象や解釈をアフォードしながらざわめきはじめる。私たちは、そこにあると思っている空間や時間が暫定的でしかないこと、そして自身の知覚の可能性にあらためて気づかされる。とともに、知覚を斬り開く新たなパフォーマンスに立ち会えたことに震撼する。

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 特別学芸員 四方幸子 (Yukiko Shikata)

『true/本当のこと』東京公演

会場: シアタートラム

2009年8月

6日 [木] 19:30*

7日 [金] 19:30*

8日 [土] 15:00 / 19:30*

9日 [日] 15:00

(開場は開演の30分前)

*true参加アーティストとスペシャルゲストによる日替りトークあり。

<http://www.true.gr.jp/>

[チケット料金] 全席指定 / 2009年6月5日 (金) 発売開始

一般: 前売3,500円 / 当日3,800円

学生: 前売3,000円 (前売のみ、ハイウッドにて取扱)

世田谷区民: 3,400円 (劇場チケットセンターにて前売りのみ取扱)

劇場友の会会員: 3,300円

[チケット取扱]

劇場チケットセンター: 03-5432-1515

<http://setagaya-pt.jp> (PC)

<http://setagaya-pt.jp/m/> (携帯)

電子チケットびあ: 0570-02-9999 [Pコード: 395-401]

<http://t.pia.jp/> (PC・携帯)

ハイウッド: 03-3320-7217 (平日13-19時 ※発売日のみ10時~)

フライヤードットネット: <http://flier.net/ks/true.htm> (PC・携帯)

ハイウッド、フライヤードットネットでの申し込みは、ご予約後1週間以内に、

チケット代金と送料手数料 (100円) を下記口座にお振り込みください。

ご入金確認後、チケットを郵送致します。

三菱東京UFJ銀行 新宿中央支店

普通口座: 3033448 名称: true実行委員会

[お問合せ] ハイウッド 03-3320-7217

主催: true実行委員会、ハイウッド / 提携: 世田谷区文化センター

助成: 芸術文化振興基金、ASHIAアサヒビル芸術文化財団 / 協賛: SHI/EIDO

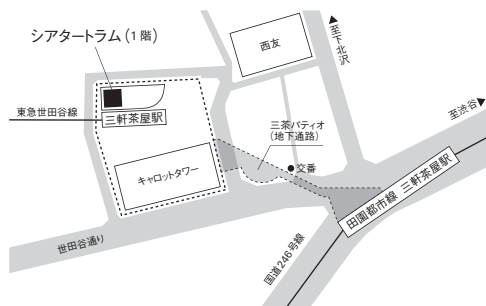
協力: 山口情報芸術センター [YCAM]、財団法人セゾン文化財団

共同開発: YCAM InterLab / 後援: 世田谷区



テクニカルサポート: カラーキネティクス・ジャパン株式会社、YCAM InterLab、
有限会社タマ・テック・ラボ、rhizomatiks、DGN

本作品は2007年山口情報芸術センター [YCAM]、金沢21世紀美術館、
横浜赤レンガ倉庫1号、ハイウッド、ダムタイプオフィスの共同企画により
制作、初演されたものです。



[車椅子スペースのご案内] (定員あり、要予約)

ご利用日の前日までにお申し込み下さい。一般料金の10%割引 (介添者1名まで無料)。

申込: 劇場チケットセンター 03-5432-1515 (10:00-19:00)

[託児サービスのご案内] (定員あり、要予約) 料金: 2,000円

対象: 生後6ヶ月以上9才未満 (障害のあるお子さまについてはご相談ください)

申込: 03-5432-1530 ご利用希望日の3日前の正午までにお申し込みください。

サポート

東急田園都市線三軒茶屋駅 (渋谷より2駅・5分) 世田谷線三軒茶屋駅となり

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4丁目1番地1号

TEL. 03-5432-1526 (代表) URL. <http://setagaya-pt.jp/>



2007 December true
@21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa
Photo by Hiraku Ikeda
Presented by 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

作品概要 Description of work:

a new sound, light and dance performance「true／本当のこと」は、二人のパフォーマーによって展開される、「脳」と「現実」の関係を探る舞台作品です。この舞台は振動体である建設用足場と、天井に吊られた直径8mのLED照明用円形トラス、そしてコンピューターでリアルタイムに生成される映像と、一台のテーブルで構成されます。テーブルの外見は簡素な木製ですが、実は内部にいくつもの装置を組み込んだ、舞台のメインシステムです。机上には写真や地球儀、グラスなどが雑然と置かれ、パフォーマーはそれらと、そしてテーブル自体とも密接に絡んでいきます。LED照明は、その色変化の自在さとデジタル制御による高速同期で、今までにない光の表現を実現し、足場には振動子がセットされ、音や動きとリンクしつつ物それ自体が揺れ、音に実感する質量を与えます。そして、映像も含めたそれらの要素は、二人のパフォーマーの動きと筋電センサーを介して同期し、現在の技術だからこそ可能な解像度で働くのです。つまり、これまでとはけた違いの精度で、音と光に包まれた劇場空間そのものが、パフォーマーの身体の延長として明滅と収縮を繰り返し、観客の身体感覚にまで影響を及ぼしていきます。

制作概要 About the production:

このパフォーマンスは、藤本隆行(Dumb Type)のディレクションのもと、白井剛(AbsT/baneto)や川口隆夫(Dumb Type)、真鍋大度など、様々なフィールドから参加した10人のアーティストの協同作業により、2007年の夏に日本国内で制作／発表されました。滞制作並びに世界初演の会場となった山口情報芸術センター Studio Bでは、約一ヶ月にわたり公演本番と同じ機材と装置が組まれ、そこで様々な実験を繰り返す事によって、作品が作り上げられていきました。

またこの作品は、文化庁と日本国内の公共アートセンター／劇場3館(山口情報芸術センター・金沢21世紀美術館・横浜赤レンガ倉庫)とアーティストの共同制作という、日本ではまだ珍しい方式で制作が進められました。その関係で「true／本当のこと」は、2007年12月に金沢でも約一週間の作品更新時間と場所の提供を受けた上で、金沢と横浜の2ヶ所でも公演され、好評を博しています。

Credits:

ディレクション・照明: 藤本隆行 (Dumb Type)

振付・出演: 白井剛 (AbsT / 発条ト)

振付・出演・テキスト: 川口隆夫 (Dumb Type)

音響・振動・プログラミング: 真鍋大度

音響・映像・ビジュアルデザイン: 南琢也 (softpad)

映像・プログラミング: 堀井哲史 (rhizomatiks)

機構設計: 齋藤精一 (rhizomatiks)

石橋素 (DGN)

センサーシステム: 照岡正樹 (VPP)

衣装デザイン: 北村教子

舞台監督: 尾崎聡 (Dumb Type)

岩田拓朗 (YCAM InterLab)

プロダクション制作: 高樹光一郎 (Hi Wood)

共同開発: YCAM InterLab

技術協力: 有限会社タマ・テック・ラボ

rhizomatiks

DGN

機材協力: カラーキネティクス・ジャパン株式会社

企画: 山口情報芸術センター [(財) 山口市文化振興財団]

金沢21世紀美術館 [(財) 金沢芸術創造財団]

横浜赤レンガ倉庫1号館 [(財) 横浜市芸術文化振興財団]

Hi Wood

ダムタイプオフィス

Special thanks: Alfred Birnbaum、太田奈緒美、

Jonathan M. Hall

ピアノ: 小山京子、富樫春生

制作意図 Project statement:

世界と向きあうために -

私たちは、世界の中に無限の色彩を見ているように思うが、実はそれはたった3つの光の波長の組み合わせを、脳が感知しているに過ぎない。そこからどれだけのバリエーションを生み出せるかは入ってくる刺激に対する脳の能力にかかっている。しかしそれは色が存在しない錯覚であり、単にそれをヒトが「現実(リアル)」だと思い込んでいる、というわけではない。実は「現実」自体が脳の作り出したそれらの感覚の積み重ねなのだ。それらは決して偽りではなく、世界はそのように創られている。そして、その「現実」の構造を理解することが重要である。

現在においては、情報・交通手段の発達で、多くの人にとって世界は狭くなったのかも知れないが、「現実」は、例えばあるヒトにとっては堅くって爪も立てられないようなものに、また別のヒトにとってはフワフワと正体不明で、分け入っても分け入っても何も見えないようなものになってしまった。国際情勢も日本の社会システムも、身近な自分の環境も少し先の未来も、何もかもが自分の力では、どうにも変えられないというような諦め... この世界と自分が切り離されたような感じ。でも本当のことを言うと、ヒトが世界をとらえる為のもっとも基本的な行為である、「見る」ことや「聞く」ことでさえ、自分の外側の物事を、ただそのまま頭の中に、鏡のように映しているわけではない。

あなたは、この一瞬に立ち現れる事象を、あなた自身の頭の中で選り分けて加工・再構成し、常に新しいあなたの世界を見聞きしているのだ。私たちが、既にそこにあると思い込んでいる、動かせない「現実」の多くは、実は自分自身の中で日々生み出され更新されている。そう、なんの制限もなくただ受け入れている、と知っているそれらの多くが、あなたが今まで生きて作り出してきた様々なフィルターにより、加工精製されたものなのだ。実は、自然の創意は、私たちの脳の中にある。

もちろんそれは、事実のある一面でしかない、でも、自分自身が「現実」をそのように確信できれば、閉塞的で太刀打ちできないと思っていたこの世界との関係性を、もう一度見直す事が出来るかもしれない。

基本的に「虚構/お芝居」である事が前提の舞台上で展開される、「true/本当のこと」というパフォーマンスは、何が嘘で何が真実かという話ではありません。知らぬ間に自分も捕らえられているかも知れない閉塞感を振り切って走り出すために、「現実」のどれほど多くの部分が、あなた自身によって作り出されているのかを、改めて問い直すためのものです。

制作人員紹介 true creation members profiles:

藤本 隆行(ディレクション・照明)

<http://www.dumbtype.com/>

<http://www.refinedcolors.com>

1987年、ダムタイプに参加。1993年に制作を開始した「S/N」以降のパフォーマンス作品では、照明並びにテクニカル・マネージメントを担当する。また、池田亮司のコンサートや、Daniel Yeung (香港)、Ea Sola (フランス/ベトナム)、Choy Ka Fai (シンガポール)の最新パフォーマンス作品などにも、照明デザインを軸に参加している。近年は、ギターリスト内橋和久とUAとのインスタレーション/コンサート「path」(<http://path.ycam.jp/>)や、ダンスカンパニー Monochrome Circusとのコラボレーション「Refined Colors」で、音響との同期を多用したLEDのみの照明デザインを特徴とする作品制作を試みている。(いずれもYCAMにて滞り制作。) 2007年は、「Drift Net」(Choy Ka Fai マルチメディアパフォーマンス commissioned by TheatreWorks) (シンガポール)などを展開。

白井 剛(振付・パフォーマー)

<http://www.baneto.topolog.jp/cws/>

1996～2000年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」の作品に出演。98年「Study of Live works 発条ト(ばねと)」の設立に参加。「Living Room -砂の部屋-」で、パニョレ国際振付賞(Prix d'auteur du Conseil general de la Seine Saint-Denis 2000)受賞。04・05年、ダンサーとしてユーリ・ン振付「悪魔の物語」、05年伊藤キム振付「禁色」に出演。04年ソロ作品『質量, slide, & 』を発表し、この作品で06年トヨタコログラフィアワード「次代を担う振付家賞」を受賞。06年自身のカンパニー「AbsT」を立ち上げ、07年「しはに-subsoil」、5人の音楽家との作品「THECO-ザコ」を発表。第一回日本ダンスフォーラム賞受賞。06年から08年にかけて現代音楽の「アルデッティ弦楽四重奏団」とのコラボレーション作品「アパートメントハウス1776/ジョン・ケージ」を国内10箇所を巡演、好評を得る。09年、新作振付「blue Lion」を京都、東京、福岡で発表。

川口 隆夫(振付・パフォーマー・テキスト)

<http://www.kawaguchitakao.com/>

1990年よりダンスカンパニー ATA DANCE を共同で主宰し、多くのダンス作品を発表。1996年から現在までパフォーマンスグループ「ダムタイプ」にクリエイティブメンバーとして参加しているほか、2000年以降、独自にソロ活動を展開。特に2003年以降は音楽とアートの領域をまたぐアーティスト/パフォーマーとのコラボレーションを行い、ダンスでも演劇でもない、まさに「パフォーマンス」としか言いようのない(朝日新聞評2005年3月12日、評論家・石川達郎氏)作品を発表している。主な作品に、2001年「夜色」、2003年「ディケノヴェス-見えなと言え」、2004年「D.D.D.」、2006年「Tablemind」がある。

南 琢也(音響・ヴィジュアルデザイン)

<http://www.softpad.org/>

1989年より複数の名義で現代美術作品を発表。1992年よりグラフィック・デザイナーとして活動開始。1999年より、音響+映像ユニット「softpad」のメンバーとして活動開始。softpad 略歴: 1999年-2000年 オーディオ・ヴィジュアル・ライブ「How They Get the Way They Are」(京都/韓国/フランス/大阪)、2001年 インスタレーション「in the house」(バレンシア・ピエンナレ Body and Sin (スペイン)、2004年-2005年 DJ スタイル ライブ Namura Art Meeting (大阪)、オーディオ・ヴィジュアル・ライブ「BCN」Sonar2006 (スペイン)、2007年 オーディオ・ヴィジュアル・ライブ「geogram」(京都/フランス/ノ)など。

真鍋 大度(音響・システムデザイン・プログラミング)

<http://www.daito.ws/>

1976年東京生まれ。東京理科大学理学部数学科卒業。国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS) DSP コース卒業。アーティストとして振動、超低周波を使用して触覚と聴覚の特殊性、共通性、相互作用を狙った作品制作を行う一方で、実験的なターンテーブルリストとしても活動中。また、プログラマー、音響として国内外の様々なアートプロジェクト、企業との研究開発プロジェクトに参加。デザインユニットDGNには、プログラマー、システムエンジニアの経験とアーティストとしての活動をミックスし、2004年春から参画。

ライブパフォーマンス:2004年 Ars Electronica 2004 (オーストリア)、横浜トリエンナーレ「Nakanijwa」(横浜)「Lib-LIVE! #003」ICC (東京)。DJ:2004年 Ars Electronica 2004 (オーストリア)。映像:2004年「sonar sound tokyo」恵比寿ザ・ガーデンホール(東京)など。

堀井 哲史(映像・プログラミング)

<http://www.satcy.net/>

1978年生まれ。東京造形大学デザイン学科卒業。国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS) DSP コース卒業。プログラミングを主体に映像制作を行い、インスタレーション、ライブパフォーマンス、VJ、WEBなど様々な形態で作品発表、デザインワークを手がける。

映像・プログラミング:2007年パフォーマンス「DriftNet」(シンガポール)、2006年「TableMind」UpLink Factory (東京)。VJ:「sonar sound tokyo」恵比寿ザ・ガーデンホール(東京)、「metamorphose」サイクルスポーツセンター(静岡)、「TaicoClub」こだまの森(長野)、2005年「in dust-real」WAREHOUSE (東京)。ライブ: 2005年「Lib-LIVE! #003」ICC (東京)「JP/+813」BankArt (横浜)、2004年「ARS Electronica2004」(ドイツ)など。

齋藤 精一(機構設計)

<http://www.rizomatiks.com/>

1975年生まれ。東京理科大学工学部建築学科卒業。建築デザインをコロンビア大学で学び、2000年からNYで活動を開始。建築に限らず、プロダクトデザイン、映像、インタラクティブデザイン他アートとコミューナルに限らず様々な活動をする。現在、株式会社ライゾマティクス代表取締役、東京理科大学理工学部建築学科非常勤講師。2003年、ニューヨークのギャラリーキッチンでの展示や、越後妻有トリエンナーレ(新潟)で2キロの環境彫刻を披露するなど国際的にも活躍している。主なパフォーマンス作品としては、2006年「Tablemind」UpLink Factory(東京)で構成・映像を担当。

石橋 素(機構設計)

<http://www.dgn.jp/>

1975年生まれ。東京工業大学制御システム工学科、国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)卒業。大学で機械工学、画像処理工学を学び、IAMASへ進学。デジタルメディアを使った作品制作を始める。現在は主に、環境映像、パブリックインタラクションシステムの新たなあり方を模索しながら、活動している。作品制作の他にも、アート・プロジェクトにおけるエンジニアリングなども行なう。2004年よりデザインユニットDGNに参画。インタラクティブ・システムのデザインやデバイス制作などを行なう。

展覧会:1999年「G-Display」ICC (東京)、2003年「Absolut border」国連大学 (東京)、2004年「D.G.N #01」丸ビル(東京/東京コンペ入選)、2006年「RFID VJ」Skipcity (埼玉)。デザインワーク:2002年～「Haat 青山店」VP Design (東京)、2003年「ルイ・ヴィトンと建築展」や2004年「ルイ・ヴィトンと万国博覧会展」のインタラクティブ・システム制作など。

照岡 正樹(生体情報センシング・振動系機構サポート)

<http://www.suac.net/vpp/>

学生時代からインスタレーション制作やレーザー照明などを行い、1998年に現SUACの長嶋氏らとVPP(芸術・技術系の同人)を結成。その後、様々なジャンルの共同制作、研究・開発を行い、あるいはメディア系の作品制作の際の技術的なサポートを行う。触覚系全般、低周波空気振動、生体情報のセンシングを主軸に、最近では「呼吸波」をテーマに、生理心理学的側面から生体情報のアート表現への活用を模索している。

インスタレーション:2001年「幽風箱-ゆうふうそう-」MAF2001 (SUAC) (浜松)、2002年「蠢すきゃん」(共同制作) MAF2002 (SUAC) (浜松)。生体情報系技術サポート:2001年～「PiriPiri Project」IAMAS (大垣)、2002年「Interactive Chaos」せんだいメディアテーク(仙台)、2006年「Tablemind」UpLink Factory (東京) など。

北村 教子(衣裳)

専門学校在職中にドラッグクイーンの衣裳を作り始め、退職後はオペラ、ミュージカル、社交ダンスなどの衣裳にも触れ、川口隆夫「世界の中心」で衣裳参加をきっかけにその後もダンスパフォーマンス作品に衣裳担当として参加。衣裳制作作品:川口隆夫作品 2000年「世界の中心」、2001年「夜色」、2003年「Night Colours」[ディケノヴェス]、2004年「D.D.D.」2006年「Tablemind」、ダンスシアタールーデンス作品:2001年「Es」、2002年「Distance」、2003年「Against Newton」[Against Newton II]、2002年 Solo8Solo (吉福教子、平松み紀)「時空の詩学-手と手」2001年「時空の詩学-eyes」、岡田智代「ルビイ」、吉福教子:2004年「スマイル」2005年「Ki」[Resonance-ver.s]。衣裳協力には、ダムタイプ「ボヤージュ」、水と油、など。



2007 December true@Yokohama Red Brick Warehouse No.1

Photo by Yohta Kataoka

Presented by Dumb Type office, Hi Wood



2007 December true

@21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

Photo by Hiraku Ikeda

Presented by 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa